

園長のひとり言 11月のひとり言

～向善説・子どもは善に向かって生きる！～

人は善なのか悪なのか。昔より、性善説と性悪説というものがあります。性善説とは、人の本性は、基本的に善であるということで、あらゆる人に善となる可能性があるという説です。それに対して性悪説は、人は様々な意味で弱い存在という意味で、人の本性は欲望的存在であるという説です。

今まで子ども達の姿をずっと見てきて、この子は善であるか、悪であるか、ということは、どうもじっくりこない、何か違うなという感じがしていました。今年になって「向善説」という言葉に出会いました。これは、慶応義塾大学名誉教授の村井実氏の説で、村井氏は「子ども達の姿を見て、人の本性は善か悪か分からないけれど、皆善に向かって生きようとしていること自体は間違いない。誰もが失敗や間違いをしながらも、より良く生きようとしている。」とおっしゃっています。

この言葉に出会い、「あーそうなんだ！」と納得するものがありました。人は誰でも、もちろん子ども達もより良く生きようとしている。失敗や挫折を経験しても、やり直そうしている。前に進もうとしている。誰でもよくなりたいのです。そう考えると、善に向かって生きるというのはとてもじっくりきます。

これから、子ども達はいろんなことに出会い、いろんなことに挑戦して、成功したり、失敗したり、喜んだり、泣いたりします。いろいろなことがあると思いますが、その時ふりかえり、反省し、自分を顧みながら、もっとよくなろう、よくしようと思って善に、前に、進むのが子ども達というものだと思います。

そのように考えると、子どもは善に向かって生きる存在で、これから善となるための可能性が十分あるのが子ども達です。ぜひ子ども達の可能性を信じ伸ばしたいものです。